

# みこむだこ

旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会

〒140-0001 品川区北品川2-2-10 TEL 03-3472-4772 FAX 03-3472-4770

URL <http://www.japan-city.com/sina/> E-mail: [syukuba@cts.ne.jp](mailto:syukuba@cts.ne.jp)

## 目に見えて変わり始めた品川宿

皆様も日々実感されていることと思いますが、品川宿周辺に今、かつてない力が加わり、大きく動き始めています。

まず特筆すべきは、われわれの長年の懸案だった「まちづくり法人」が、NPOという新しい組織形態で発足したことです。そしてこのNPO法人「東海道品川宿」のもとで早速、昨年9月に「あぶりや連」、今年2月に「居残り連」と、空き店舗を活用した事業を立て続けに実現することができたことは、これまでにない明るいニュースとなりました。この事業を全面的にご支援下さった品川区、地元町会、北品川本通り商店会、そして事業化にこぎつけたNPOのスタッフの皆さんに篤くお礼を申し上げたいと思います。この2軒の連によって、品川宿の北の入口にまちづくりの新しい拠点が生まれたことは、これからの発展を期すこのまちまちにとって、大変に意義の深いことだと考えています。

さて今年度は、北品川から鮫洲、立会川までを含めた旧東海道に面したまちにも呼びかけ、「まちなみ整備事業計画書」の作成に取り組みたいと考えています。これは周辺地域の再開発によって生じた様々な環境の変化、影響を視野に入れながら、地域の要望を踏まえたまちづくりを模索する作業です。

一方、北品川本通り商店会、北品川商店街、京急新馬場商店街の三商店街では、本年4月からいよいよ電線の地中化工事が始まります。この工事は最短でも5年はかかる長いもので不便を伴いますが、完成の暁には電線、電柱が取り払われ、路面も再舗装されて、歩行者に優しい安全な道路空間が完成する予定です。この工事に伴う街路灯および路面のデザイン化については、品川区と地元との調整事項ですが、当協議会では、平成7年に作成した「まちづくり計画書」に示されている石畳整備を検討いただくよう提案してまいります。これまで進めてきた石畳を北から南へ、そしてさらに鮫洲、立会川へとつないでいくことができれば、歩行者の安全確保と、旧宿場町らしさを表す観光資源として大いに期待できると思います。

品川宿周辺が大きな力で動き始めた今、新年度の事業へ向け、皆様のご理解とさらなるご尽力を賜りたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会会長 堀江新三

## しながわの水辺の素晴らしさ

最近、国を初め、東京都、品川区の行政関連のニュースに、都市再生、都市型観光、景観、或いは地域の発意、地元の取り組みと一体化した街づくりという言葉が目につくと思いませんか？すでに、皆様の旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会は時代を先取りして十数年前より、地域の思いを込めたまちづくりを進めており、何を今更という感もおありと思います。然しながら、例えば、東京都の街並み景観作り制度、運河ルネッサンス構想などは我々の活動を間違いなく後押ししてくれることと思います。

我々の周りには品川浦、天王洲、目黒川、京浜運河、勝島運河と素晴らしい水辺があります。特に品川浦には船宿さんが並び、屋形船が行き来し、昔の佇まいが残る素晴らしい景観があります。また勝島運河は地元の皆様の努力で菜の花、ひまわり、コスモスが四季により美しい“しながわ花海道”という名所（観光資源）となってきました。

しながわ観光協会ではこれらの貴重な観光資

源を活用・利用するために、昨年度より水辺観光事業3ヵ年計画を策定し推進しております。“しながわの水辺を親しむ”を目標にイベントの実施（ボート遊び、屋形船観光等）周辺運河・河川の実態調査（必要な整備、施設）などをスタートさせました。

一方、東京都港湾局が進める運河ルネッサンス構想は観光の視点から運河の役割を見直し、多様な機能を持つ空間として利活用を図る、また水辺空間の賑わいや地域としての魅力の創出が目標なのです。然しながら、運河の利活用に関してはご存知のように様々な法規制、行政指導、バリアがあります。本構想を推進するため、天王洲をモデル地区として、港湾局主宰の協議会が昨年9月発足し、品川区、天王洲開発協議会メンバーの他、しながわ観光協会も委員として委嘱され、観光協会として地域の方々の計画、要望、事情を良く踏まえて協議に参加しております。

今後一層協力をし合って、次代の子供たちに愛され、親しまれる素晴らしい水辺空間を創出し、残して行こうではありませんか。

しながわ観光協会 常任理事 栗原洋三



## 旧東海道品川宿 宿場まつり 《鏡の街／しながわ》をめざして

1988年(昭和63年9月)、品川まちづくり協議会が誕生した。その目的を、「東海道一宿」としてこの地にある多くの史跡、幾多の時代を築き育れた文化を生き残り、豊かにならざるを恐るる時代に新えらるる街の創造ができないものと考え、旧東海道とその周辺の街並みに沿って、各商店街に集まってもらい、名称を「旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会」と改めた。

その為には、各通りを地域の方々に検証いただける買い物通りとして、各商店街が協力して行事を催すにあたっては、「各自達の街を知る事が大切ではないか」という声があがり街を皆で歩くことに決定。当時の企画広報課長、商工委員会所小泉事務局長、協議会役員、地元の深い理解のもとに各地域の町会長等も参加し、同年10月下旬から21日品川銀座商店街振興会、25日品川南商工と集會を開催。そして80日北品川品川見学会を主催。反省と意見交換の集会にはさき16日北品川見学会で、17日北品川見学会、16日北品川商店街(協)で会合を行い、月末に第5回目協議会の初めで見学会2回を通して意見交換を行った。初めて試みた他の商店街会合の席に、多くの商店街の人数が参画した意義、意思の疎通が一瞬一瞬形成されていく興奮が感じられた。今後の進め方に対して、短期的に出来ることと長期的に検討すべきことについて考え、まずは出来ることから取り組むことを決定した。

その席で協議会本会議において、一般質問と、区長の答弁の中で「まちづくり協議会が形勢について協力を今後していく」旨の内容があったとの報告もあり、今後行政と意見をかわしながら進もうという確信を得あげられていくのをひしひしと感じた会であった。

1990年(平成2年)、今まで共同で行事や催し形態がなかったが、今後は地域協議会のもとも形として共通のイベントを挙げてみようという機運が盛り上がった。その間協議会の構成も京急新馬場商店街振興組合の誕生、加入があり、組織も責任体制の確立の時期をむかえていた。

その一丸となつての共同イベントが、品川宿まつりの前身といわれる《鏡の街／しながわ》であった。

品川寺見廻船60周年記念行事に合わせた共同イベントを実施については、スズメギョウズグループの案目とするのを考慮し、平成2年3月下旬、品川専門店会3階会議室で行われた協議会役員会に於いて、開催日は10月末～11月初旬とする事決定した。共同イベントの実施方法については、組織間にもあるイベント企画担当の青物横丁商店会会長堀江氏が担当し、企画書を作成する事に決定。資金調達は、各商店街が責任をもって集め又協賛金を募る事決定した。

4月以降行政の事業予算も具体化し、平成2年8月16日(1990年)商店街活性化助成事業、東京都単独事業として「東京都中小企業振興公社」基金43号として受理された。その収支予算は合計で28,840千円であった。(次回に続く)

## 『またあした』雑記パート2

会場小学校に、またあとと佐藤さんに対するアンケートをお願いしたところ、快く引き受けてくださった。

質問の内容は、以下の通りです。

1. 今年2月に品南公園の前に新しく駄菓子屋が出来たことを知っている。
2. 駄菓子屋になる前は何だったか知っている。
3. 駄菓子屋の名前は「またあした」を知っている。
4. 「またあした」に行った事がある。
5. 「またあした」で自分でお金を出して買い物したことがある。
6. 「またあした」のおばちゃんの名前(佐藤さん、または佐藤茂子さん)を知っている。
7. 「またあした」のおばちゃんは、たぶん僕・私(児童自身)を知っている。
8. 「またあした」のおばちゃん、たぶん僕・私(児童自身)の名前も知っている。
9. 「またあした」のおばちゃん、たぶん僕・私(児童自身)が、どこかの誰かさんとも知っていると思う、等々です。

詳細な答は、省略致しますが、概ね約90%、内容によつては95%の子供達が好感を持っていてくださいます。



子供達が「またあした」と佐藤さんに好感を持っていてくれる様に、佐藤さんはいつ子供たちに優しく覗きと眼差しを掛けてくださいました。しかし、悲しい事ながらその優しさに応えられず子供も居る事もまた事実な事です。買った菓子を公園で食べ散らかしたり、ゴミを放置したり。また、小さい子の買い物カゴの中自分らの欲しい物を入れて一緒に買わせようとしたり…そんな目に会ったときは、許せぬ佐藤さんにも流石に黙っては居ません。許せぬ間はさせ

んが、もう買に来てくなくても良いと、暫く出入り禁止を言い渡された子も何人居るようでした。

それで良いと思います。悪い事は悪いときちんとわきまさせなくてはなりません。ともすれば家庭や学校の中で見失われがち、或いは分かっていても教養されてない礼儀や常識といった親、我々は佐藤さんの姿勢を支持し応援しています。いや、かえって佐藤さん一人に押し付けてしまっているのが心苦しいらうです。

また、時には小さいながらも悩みを抱えている子に優しくアドバイスしてくれているようです。時にはやりすぎたかと悩む、時にはおれらに強くて頑固で子供たちを見守っていてくれるこの街のおおろくろさん、皆さんこれからも応援してください。

4月15日(金)、ケーブルテレビ品川の取材を受けました。放送は5月中旬から下旬の予定だそうです。是非ご覧下さい。

新宿お休み処副館長 藤原典男

## 2月14日、「屠戮り連」がオープン!

「連」もお除夜で、順調に第2号店をオープンすることができました。これもひとえにまちの皆様のご協力があればこそ、スタッフ一同、深く感謝しております。

ご承知のように1号店は、1階がしながわ名物堂、「スタンディングバー」そして地階が「あぶりや連」となっていますが、いずれもお客様から大変ご好評をいただいております(テレビや新聞でいふご紹介したこともあり)、毎月、当初の予定はいくらか上回る売り上げを記録しています。何しろ慣れないことで、まだまだ行き届かないことはありますが、そのあわただしい中で、当初の予定通りに第2号店を開店することができたと、苦労が多かつた分、その喜びもひとしおというのが実



屠戮り連

感です。そしてまちなみさんには、1号店も増して、様々な面でご協力を戴きました。この場をお借りして厚くお礼を申し上げます。

その2号店は、隣の名店「荒井家」さんの跡をお借りしたもので、その名も「屠戮り連」としました。お客のスタイルはあぶりや連と方向を分け、洋風料理をベースに、品川風といえますか和風にアレンジし、ワンダラスを順行しながら食事を中心にお楽しみいただければと考えています。こちらもあぶりや連同様、品川駅周辺のオフィスビルの方、近隣のマンションの方、そして休日には地元の方々にご利用いただき、お除夜で、開店間もなく段階で予約調度に推移しています。

さて、実はこの間、ある有名ホテルの副館長を務められた観名義正さんが、われわれの活動に共感してくださり、あぶりや連ならびに屠戮り連の整理を総合的に監督、指導してくださっています。この観名さんの存在がなくては、ここにこの報告できるような実を結ばなかったものと、日々身よびで実感しています。ここに記して、改めて感謝申し上げます。

皆様もどうぞ、あぶりや連、屠戮り連へお出かけください。そして、料理、サービスに戴いた目を向けていただき、よりよい街づくりにアドバイスをいただければ幸いです。

今後とも「ふたつ」の連と、NPO「東海道品川宿」をどうぞよろしく願っています。

あぶりや連 定休日なし・5783-1781  
屠戮り連 土日休 事務所 3450-5660  
NPO「東海道品川宿」事務局 金子一美

## かつてない マスコミ報道 ラッシュ!

1月のテレビ朝日「旅の香り、時の遊び」、2月のNHKテレビ「首都圏ネットワーク」、4月のテレビ東京「出発!7下街ツア天国」そしてさらに、朝日、読売、毎日、日経、サンケイ、東京の新聞各紙(毎日協議会新設ではカラー版の1/2ページという破格の扱い)、東京ウォーカー、OZマガジンのような情報誌、さらにラジオなど、このころ品川宿周辺は、時ならぬマスコミ報道ラッシュに見舞われています。その一番のフックになっているのは、いまでもなくNPO東海道品川宿の活動です。ねらい(目標)を定めてよく頑張れば、話題になる、話題になれば、人が呼べる、人が呼べれば、もう少くも頭懸れる——そんなないサイクルをつくって出して、品川宿を人の噂へ元氣なまちにしたものです。





## 大越君が結婚しました

去る4月23日(土)、永年協会の懸案事項となっていた？大越君が独身生活に終止符を打ってついに結婚しました。

もてるフェロモンの全てを傾けて、すばらしい女性をゲットしました。

堀江会長に感想を聞いたところ「やっと胸のつかえが取れたようなそんな気持ちです。なんといってもまちづくりは子作りから！ここ数年の、まちづくりの活動の中で一番の進歩ではないかと思います。」と語っていました。

まちづくり協議会発足当時から運営委員として活躍し、品川神社の氏子青年会の会長(当時)として、また商店街(北品川本通り商店会)の若手としても実に八面六臂の実力派。肝臓も二つや三つの予備があり、祭礼そしてそのあとの鉢祓い(お祭りの打ち上げ)を毎週土日と八月まで笑ってこなす男の中の男です。

現在は天職ともいえるしながわ観光協会の事務局長として、しながわの発展のため忙しい毎日を送っています。

大越君本人に子作りのほうはと尋ねましたところ、「お互いそこそこのとしなのでグッピーみたいにピューピューと、というわけにはいきませんが、みこしだこをつなげるためにも頑張ります。」と頼もしい一言を頂きました。

(彼自身立派なみこしだこの持ち主ですが、この活動報告「みこしだこ」の命名者でもあります)

協議会の関係者に置かれましては大越夫妻を暖かい目で見守るとともに、しながわの発展のためにより一層のお力添えをよろしくお願いいたします。



## 賀詞交歓会報告

1月28日(金)ホテル ラフォーレ東京におきまして100名以上の方々と賀詞交歓会をさせていただきました。

いつもの通り一文字の書、今年は「和」(なごみ)をかかげ、副会長吉澤より「皆が手を取り合ってまちづくりを！と言う小さな投げかけが大きく育って今年はこんな多くの方々においでいただきました。まちづくりを語らいながら和らぎのひと時を過ごしましょう。」と開会の辞。

会長堀江が「お休み処を活用して始めた駄菓子屋“またあした”は佐藤さんという適材を得て子供たちの良い居場所となっております。そして北も南でも次世代のまちづくりの担い手が育ってきております。ここ3年うちにまた品川は大きく変わっていくと思います。厳しいけれども“やせがまん”と“カラ元気”で頑張ります。」と挨拶しました。

ご来賓を代表して品川区長高橋久二様より「大勢の人がまちの活性化のために集まっている。夢の実現のために行政も頑張る。実際に今年度より商店街の電柱の地中化を実施していく。古いものをとどめながら活性化されたまち、こんなまちづくりをしたい。」と力強い挨拶をいただきました。

NPO品川道の理事長 石井傳一郎様のご発声で乾杯をしました。

今年も和やかに賑やかに語らいのひと時を持つことが出来ました。

### 東海道シンポジウム連絡会

#### 東京・神奈川ブロック会議への誘い

NPO「特定非営利活動法人歴史の道東海道宿駅会議」の前身である「東海道シンポジウム連絡会」の時代から、東京と神奈川の宿場がブロック会議と称して年4回ほど集まり連絡を密にして来ましたが、今回はここ品川宿が幹事となり、下記要領で開催されます。

6月1日 18:30から台場小学校にて会議  
20:30頃から一龍屋台村にて懇親会。

各宿の方々ばかりでなく、五十三次を繋ぐ様々なグループのメンバーが集まります。東海道のことや各宿場の情報交換等を行い、その後懇親会。大変気さくな集まりですので、初めての方も是非一度ご参加ください。